

[CLASSIFICATION]
STRATEGIC INTELLIGENCE
BRIEFING

[DATE]
2026-08-29

[AUTHOR]
CLAUDE OPUS 5

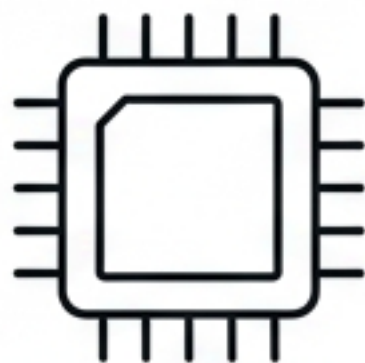
[TARGET]
ENTERPRISE C-SUITE /
AI STRATEGY & LEGAL

テンセント「Hy4 preview」の 実態と日本企業への戦略的含意

7,700億パラメータ・オープンウェイトLLMの真偽検証
と、導入における法務・地政学的リスクの完全解剖

VERIFIED
INTELLIGENCE

Executive Summary



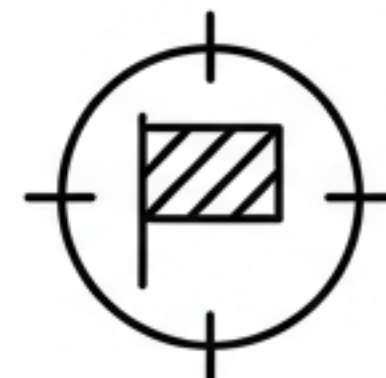
【技術】 誇大広告の剥離

「770Bの巨大モデル」は総パラメータ数であり、毎トークン実働するのは49B (MoEアーキテクチャ)。コンテキスト長は1Mを誇るが、現在はテキスト専用(マルチモーダル非対応)。



【法務】 ライセンスの大前進

Apache 2.0を採用。旧モデルにあった「EU・英国・韓国での利用禁止」や「蒸留の制限」が撤廃された。日本企業の法務レビューにおいて極めてポジティブな転換。



【戦略】 導入判断の現在地

デジタル庁の指針およびデータガバナンスの観点から、本番・機密環境へのAPI導入は不可。PoC対象としては一級品だが、本格導入は「独立機関の検証」と「セルフホストの確立」を待つべき段階。

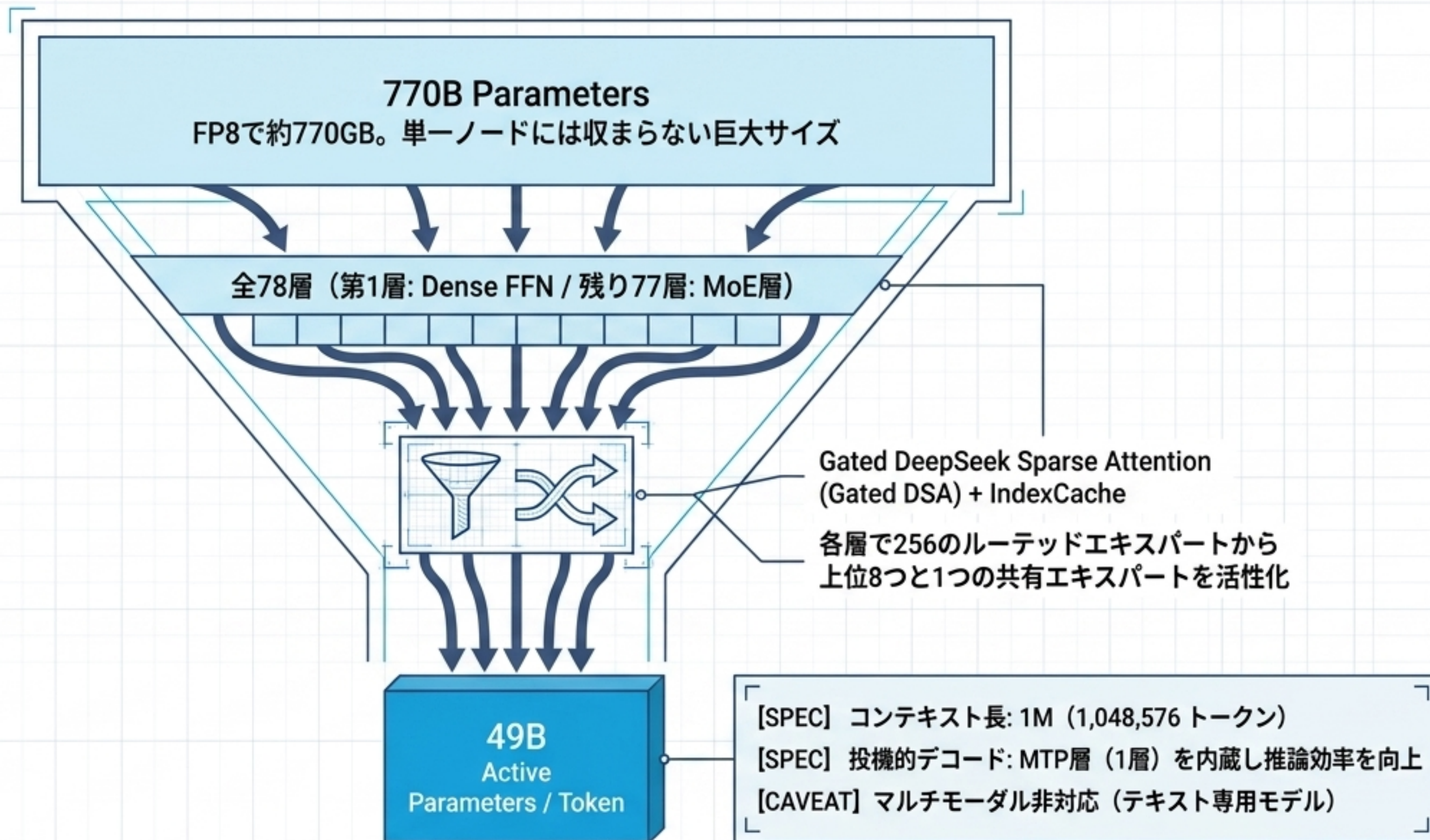
**MEDIA
HYPE**

The Drop: ニュース見出しと技術的実態のズレ

**VERIFIED
REALITY**

- 「テンセントがHy4をリリース」 → 正式名称は「Hy4 preview」（プレビュー版）。正式版による仕様変更の可能性あり。
- 「7,700億パラメータの巨大モデルが動く」 → 770Bは総数。MoE（Mixture of Experts）により、トークンごとに稼働するのは49Bに過ぎない。
- 「完全にオープンソース化された」 → 正確には「オープンウェイト」。学習データやその著作権処理の実態は依然としてブラックボックス（中国製モデル共通の課題）。

Under the Hood: 「770B」の透過的構造



Performance Claims: テンセントの主張と「最大の留保事項」

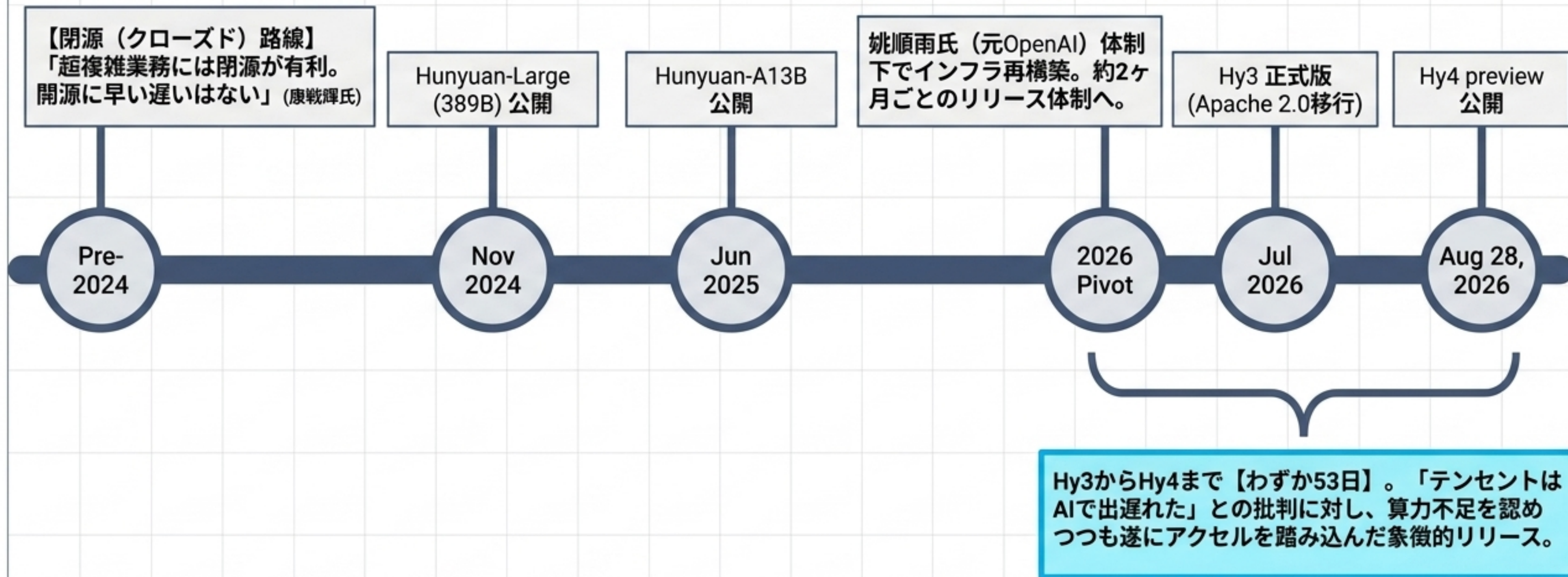


⚠ 独立第三者による検証の欠如

GPT-5.6 Sol等が第三者測定済みであるのに対し、Hy4のスコアは公開時点（2026年8月末）でテンセントの自己申告のみ。

163名の専門家による盲検評価（GLM 5.3やKimi K3との比較）もテンセントがタスク選定から実施おり、0.05~0.07の微小なスコア差は「実質的に同等・交換可能」であることを示すに過ぎない。相応の割引評価が必要。

The Speed of Execution: 閉源から高頻度リリースへの戦略転換





The Legal Breakthrough: Apache 2.0採用による障壁の撤廃

	[旧] Tencent Hunyuan Community License	[新] Apache 2.0 (Hy4 preview)
地域制限 (Territory)	✗ EU・英国・韓国を明示的に除外	✓ 撤廃 (地域制限なし)
競合モデル訓練・蒸留	✗ 厳しく制限	✓ 制限なし
大規模商用利用 (MAU 1億超)	✗ 別途許諾が必要	✓ 制限なし
特許・出力物の権利主張	✗ 複雑な付帯条項 (Exhibit A) あり	✓ 標準的な特許条項に準拠、出力物への権利主張なし

【実務上の注意】 このApache 2.0は「Hy4 preview」単体の話。HunyuanVideoなど他の混元系モデルは現在も旧ライセンスが適用されているため、採用検討は必ずモデル単位で行うこと。

The Hardware Mystery: 輸出規制下における学習インフラの謎

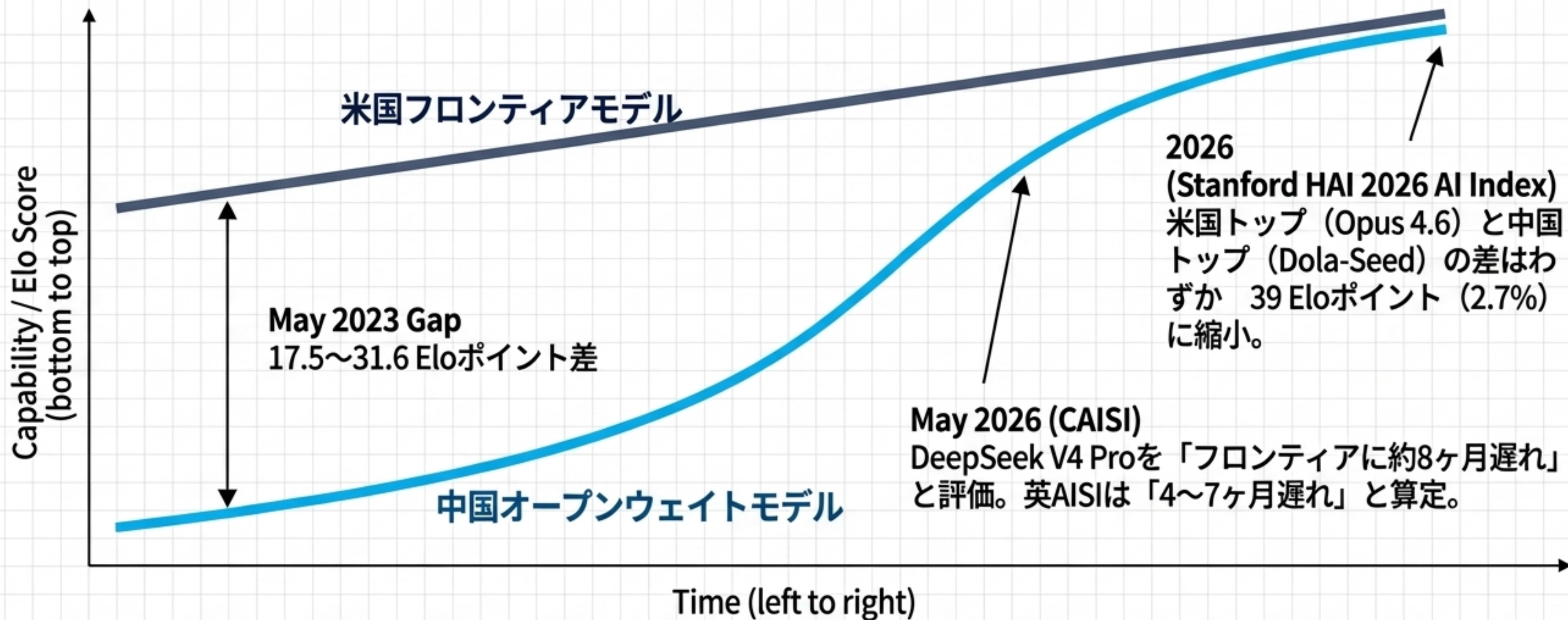
Clear-Box Intelligence Dossier



学習に何を用いたかの確証は非公表。しかし、米国によるハードウェア中心の輸出規制（Export Controls）を回避、あるいはその制約下でもGPT-5クラスのモデルを訓練し得るインフラが中国国内に存在することを示唆している。

The Global Macro Shift: 「年単位」から「月単位」へ縮小する米中格差

Clear-Box Intelligence Dossier



Hy4 previewの登場は、「中国は米国より半年~1年遅れている」という定説をさらに突き崩す事例。最先端モデルとの性能差は、もはや「年単位」ではなく「月単位」のフェーズに突入した。

The Token Supply Battlefield: 新たな競争軸の出現

Clear-Box Intelligence Dossier

中国製モデル: 約61%
(5.3兆トークン/週)

OpenRouter
上位10モデル
2026年2-3月

その他: 約39%

Hy4 preview API価格

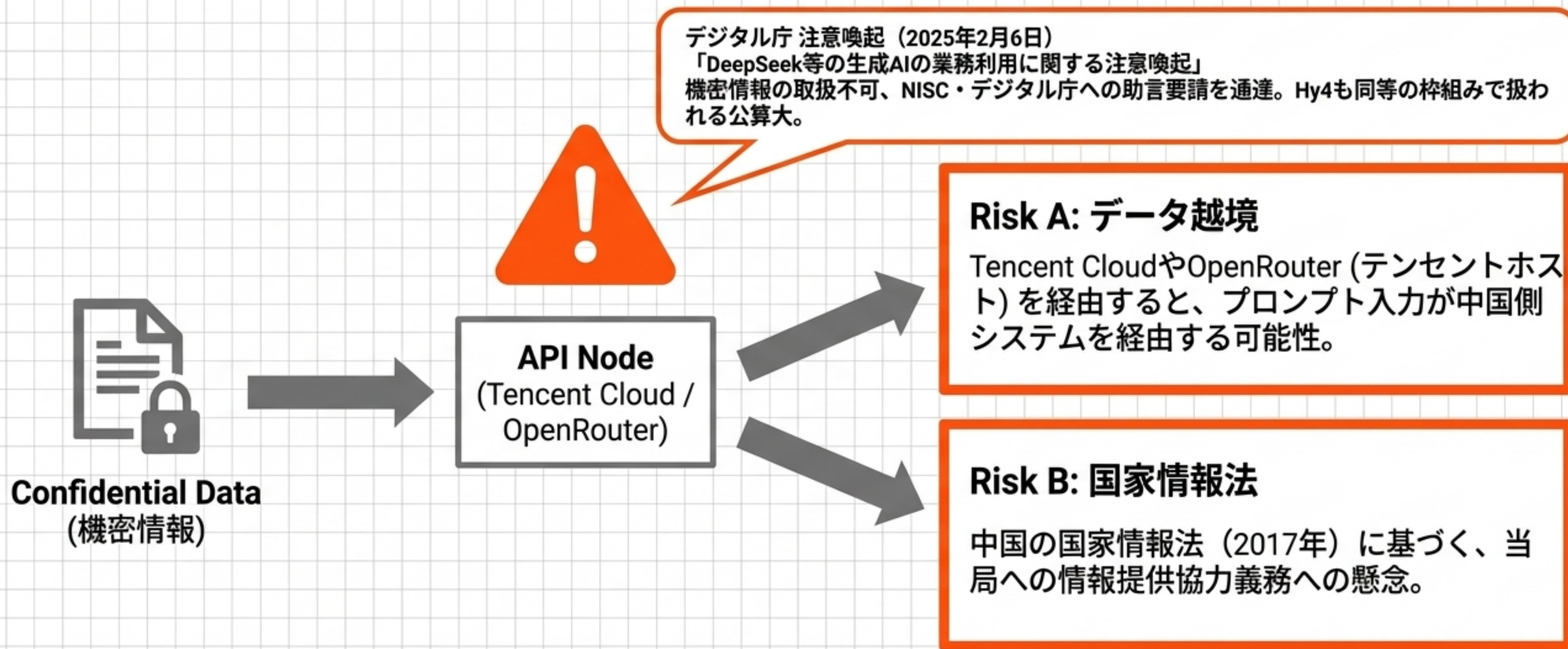
入力: \$0.83 / 1M tokens (約6元)
出力: \$2.50 / 1M tokens (約18元)

※GLM 5.3を大幅に下回る低価格設定。

パラダイムシフト

競争のルールが「最も賢いフラッグシップモデルはどれか」という性能競争から、「世界の実運用環境に対して、安価なトークンを誰が大量供給するか」というインフラ支配の競争へ移行しつつある。

Japan Enterprise Risk #1: データ主権と政府指針



【業界動向】 トヨタ、三菱重工、ソフトバンク等は既にDeepSeek等の中国製AIの業務利用を従業員に禁止済み。

Japan Enterprise Risk #2: 地政学ロックインと運用上の弱点



Geopolitical Risk: 地政学ロックイン

通常のベンダーロックインとは異なる「地政学ロックイン」。米中双方の突然の輸出入規制、制裁、アクセス遮断措置により、APIやインフラが突如利用不能となるリスクを常時抱える。



Technical Flaw: 過剰検証（Over-verification）

テンセント自身が「複雑タスクにおいて必要以上に長く推論し、自らの作業を過剰に検証する」既知の弱点を明記。

実測スループット36 tokens/secと相まって、遅延（レイテンシ）の増大とトークン浪費によるコスト増に直結。タイトなエージェントループには不向き。

The Deployment Matrix: 日本企業のための導入判断フレームワーク

【GO】 試用可

PoC・非機密タスク

Action: OpenRouter / API経由での試用。コード補助や公開情報の文書整理。
Condition: ベンダー数値を鵜呑みにせず自社タスクで独自評価すること。

**[NO-GO / API不可]
条件付きで検討**

本番環境・機密データ

Action: APIへの機密データ送信は厳禁。Apache 2.0の重みを利用した「自社インフラでのセルフホスト」のみが唯一の選択肢。
Condition: 8基のH200級インフラ投資が必要。法務によるLICENSE現物の目視確認必須。

**[WAIT]
当面見送り**

政府調達・公共分野

Action: デジタル庁・NISCの枠組みに準拠し、当面は導入を見送るのが無難。

Triggers for Re-evaluation: いつ判断をアップデートすべきか



Trigger 1: 独立機関による事実認定 (Fact Verification)

Condition: LMArena, Artificial Analysis, CAISI等の独立第三者がHy4の主要スコアを再現・掲載した時点。

[本格評価への格上げ]



Trigger 2: 正式版のリリース (Product Maturity)

Condition: 「preview」が外れ、既知の過剰検証問題（コスト浪費）が解消され、かつマルチモーダル（画像・音声等）に対応した時点。

[ユースケースの再評価]



Trigger 3: セルフホストの実績蓄積 (Infrastructure Readiness)

Condition: vLLM / SGLang等のコミュニティにおいて、量子化版を用いた安定運用やLong-context実測の実績・知見が蓄積した時点。

Validation Green

[本番導入（セルフホスト）の最終決裁]

Appendix: 本報告における情報制約と留保事項

- Data Snapshot: 本報告の仕様・価格・パラメータ数は、2026年8月28日時点（リリース直後）のスナップショットに基づく。
- Self-Reported Metrics: 記載されたベンチマークスコアはテンセントの自己申告値であり、実環境での性能を保証するものではない。
- License Verification: 報道およびファイルサイズからApache 2.0であることは強く推認されるが、自動ツールによるライセンスファイルの逐語取得が不可であったため、実務採用前には必ず法務担当による現物の目視確認を要する。
- IP Landscape: WIPOの報告（テンセントが生成AI特許世界首位・2,074件）は生成AI全体の集計であり、Hunyuan-LLM単独の件数ではない。
- Hardware Speculation: 学習チップに関する推測（H20/H200）は状況証拠に基づくものであり、推論環境のDay 0適配（国産GPU）とは区別して理解する必要がある。